

2018 SGH通信

【1年生配布用】

No.11 岐阜県立大垣北高等学校 SGH 推進部

アジアの持続可能性に関する「グループ研究」を開始します

いよいよ1年生の「SGH探究1」も核心部分のグループによる研究推進の時期がやってきました。アジアの持続可能性に関わる講演の選択を中心に3人～6人のグループを作ります。そのグループで、東南アジアをフィールドに探究活動を行います。

本校は、昨年まで5つの領域で研究を行ってきました。その領域を受け継ぎつつ（下記表参照）、10月26日から日本語論文完成に至るプログラムを開始します。完成型は、「1,500字程度の日本語論文」です。ゴールをしっかりとイメージしながら進めてください。

領域名	講演内容	人数	
環境 【A】	環境に優しい元素によるものづくりと持続可能社会	42	【環境エネルギー】※ 再生可能エネルギー ・ 水 ・ 農業 の3分野に分かれていました。 エネルギー確保・水環境確保等の方法を学び、環境エネルギー分野での国際貢献の在り方を研究
	太陽光発電システムにおける長期信頼性	42	
	モンスーンアジアの中小都市における健全な水環境の創出	23	
医療 【B】	今、エイズなどの感染症研究・医療で求められていること -日本と東南アジアで-	87	【国際医療】 HIV等を題材に、国際医療福祉の課題を学び、医療を通じた国際貢献の在り方を研究
開発 【C】	カンボジアにおける学校教育の現状と格差～青年海外協力隊としての活動をもとに～	58	【国際開発】 国際開発課題の本質実態を学び、国際貢献の在り方を研究 【国際ビジネス】 地元企業の海外経営戦略や国内外での活動を学び、国際ビジネスを通じた国際貢献の在り方を研究 【比較教育】 教育の実態や教育課題を学び、教育政策を通じた国際貢献の在り方を研究
	国際協力の現場から ～東南アジアが直面する課題～	35	
	開発途上国の貧困問題と開発援助	35	

テーマは、アジアの持続可能性に資する探究です。1年次は、フィールドをカンボジアかベトナムに絞りました。また、探究領域をかつての5つから【A】～【C】の3分野にわけて探究を行ないます。

共通テーマとなるグループテーマをもとに、個々人が1,500字の論文を作成します。その後、グループ内で書き上げた論文を基に、共通テーマによる日本語プレゼンを行っていきます。

裏面に、後期の大まかな内容を掲載しますので、目を通してください。

グループ研究 流れ

★10月26日（金） グループ発足・アジアに関する調べ学習

10月12日に聞いた「アジアの持続可能性に関する講演」の内容が、ベトナムとカンボジア両国ではどのような状況であるのかを調べます。その中で、その状況からどんなことが問題になっているのかを見つけてください。

グループは、同領域の講演を聞いた同じクラスの生徒3人～6人で構成されています。11月2日までに、どちらの国をテーマの対象国にするか決めましょう。

★11月2日（金） グループテーマ決定（WHAT・WHY）

ローカルテーマでの探究活動を思い出してください。数ある状況の中から、何が問題になっているかをワークショップで決定してください。そして、その問題の原因を指摘するまでがグループテーマとなります。複数の講演参加者で構成されているグループは、何をWHATにするか、しっかり話し合ってください。

★11月9日（金） 個人課題（HOW）決定

WHATが決まれば、WHYの仮説は人それぞれ。ここからは個人で探究する時間です。共通のWHATとWHYに対し、自分はどんな提言をするのか。ネット検索を中心に、仮説を立ててみてください。

★11月16日（金） 探究計画書の作成・方向性確認

リサーチクエスチョンとその仮説、仮説の検証に必要なと思われるデータは何かを考える時間です。後日配布の計画書に自分の考えや、読んだほうが良いと思われるデータ等を記入していきましょう。

★探究活動開始（計5時間）

目標：1,500字のミニ論文です。

【グループテーマ決定の補足】

- ① 研究フィールドはカンボジアかベトナム
- ② 10月12日の講演テーマを基に決定
- ③ SDGSの開発目標の何に関わっているかを意識
- ④ なぜ、その探究に決めたかを明確にしましょう。